日本遺産とは

「日本遺産(Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。
ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

【 本邦国策を北海道に観よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～ 】は
令和元年度日本遺産に認定されました。

日本遺産ポータルサイト
https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/

炭鉄港 Japanese legacy of Industrial modernization

炭鉄港 ガイドマップ

～タンテツコウ～ 炭鉄港 ストーリー

北海道の近代化は、1872(明治5)年、石炭埋蔵の確認が開始されたホ小樽からスタートしました。その後、小樽が北海道のゲートウェイとして一段の飛躍を遂げる現場となったのは、1879(明治12)年、北海道初の近代炭鉱である官営幌内炭鉱(現在の三笠市幌内)の開鉱でした。

その石炭を運ぶための幌内鉄道は、北海道初の鉄道として、まずは1880(明治13)年に手宮(小樽)～札幌間が部分開通、1882(明治15)年には幌内まで全通しました。幌内鉄道は、小樽港への石炭運搬だけではなく、北海道内陸部へ入植する人や救援した農産物の輸送に活躍するとともに、人や物資の輸送円滑化を通じて道都札幌の発展も支えました。

1889(明治22)年、炭鉱と鉄道は元薩摩藩士の盛舘が設立した北海道炭礦鉄道会社(北炭)に払い下げられ、同社によって空知炭鉱(歌志内)と夕張炭鉱(夕張)の開発が進められました。それに伴い、1892(明治25)年に室蘭まで鉄道が延長され、岩見沢が道央圏を東西南北に結ぶ鉄道の交点として、室蘭が石炭積出港として発展する礎となりました。

1906(明治39)年には、鉄道が国有化されました。北炭は、その売却資金をもとに、英国企業2社との合弁により室蘭に日本製鋼所を設立。1909(明治42)年には製鉄へと進出し(輪西製鉄場:現在の日本製鉄室蘭製鉄所)、室蘭は鉄の街として不動の地位を確立しました。

一方、鉄道国有化によって北炭の独占輸送体制が崩れ、財閥各社は一斉に空知へ進出し、これを足がかりにして日露戦争で獲得した樺太へと勢力を伸ばしました。このことが小樽港の一層の発展を促して、1914(大正3)年の小樽運河の開削へとつながっています。

空知・小樽・室蘭の三都を結ぶ鉄道は、全道の鉄道ネットワークの機軸となり、三都の基幹産業である石炭・港湾・鉄鋼は、北海道の産業化を先導していきたのです。

炭鉄港ポータルサイト
https://3city.net/

炭鉄港めぐり

「炭鉄港」の地域には、魅力が尽きることがありません。
今、直ちに動き出せば、楽しくスタートできるものばかりです。
さあ、食べて、歩いて、歩いて、「炭鉄港」の物語を語り継ぎましょう！

ガタガタの鉄道 歴史

岩見沢市は明治期に北海道の鉄道網の中心地として栄えました。
当時の駅舎は、大正期に建てられたものです。
ホームは、ガタガタ。
ホームの一部は、ボロボロです。
ぜひ、ご覧ください。

炭鉄港の味 ご当地グルメ

炭鉄港の味覚を堪能してください。
ご当地グルメ、ご当地ラーメン、ご当地スイーツ、ご当地ビール、ご当地ワイン、ご当地ウイスキー、ご当地ジビエ、ご当地ソーセージ、ご当地チーズ、ご当地ハム、ご当地ジャム、ご当地ハチミツ、ご当地ハーブ、ご当地ハーブティー、ご当地ハーブビール、ご当地ハーブウイスキー、ご当地ハーブジビエ、ご当地ハーブソーセージ、ご当地ハーブチーズ、ご当地ハーブハム、ご当地ハーブジャム、ご当地ハーブハチミツ、ご当地ハーブ入りご当地ラーメン、ご当地ハーブ入りご当地スイーツ、ご当地ハーブ入りご当地ビール、ご当地ハーブ入りご当地ワイン、ご当地ハーブ入りご当地ウイスキー、ご当地ハーブ入りご当地ジビエ、ご当地ハーブ入りご当地ソーセージ、ご当地ハーブ入りご当地チーズ、ご当地ハーブ入りご当地ハム、ご当地ハーブ入りご当地ジャム、ご当地ハーブ入りご当地ハチミツ、ご当地ハーブ入りご当地ハーブ、ご当地ハーブ入りご当地ハーブティー、ご当地ハーブ入りご当地ハーブビール、ご当地ハーブ入りご当地ハーブウイスキー、ご当地ハーブ入りご当地ハーブジビエ、ご当地ハーブ入りご当地ハーブソーセージ、ご当地ハーブ入りご当地ハーブチーズ、ご当地ハーブ入りご当地ハーブハム、ご当地ハーブ入りご当地ハーブジャム、ご当地ハーブ入りご当地ハーブハチミツ、ご当地ハーブ入り